

交通ルールを理解しよう ～歩行者信号のある横断歩道を渡ろう～

ご家庭から登下校班での様子や困りごとの聞き取りをした中で、「交通ルールが守れていない」「歩く順番が守れない」等の話が聞かれました。そこで、『安全な歩行の支援』『交通ルールへの意識』にターゲットをしぼって支援を組み立てました。

①安全な歩行の支援

車が来ない安全な場所で、大人と手をつなぐ練習や順番を守って歩く練習をします。スタンプラリー等のゲーム要素が入っている活動をしなが、順番の理解や手つなぎを促すと、子ども達が飽きずに練習することができます。どの程度、順番の理解があるか、大人と手を繋げるかもここでアセスメントをとります。



②交通ルールへの意識

交通ルールに興味を持ってもらう為に、歩行者用信号の〇×クイズを用意しました。クイズを通して、交通ルールにどの程度の理解があるのかを観察していきます。

<例> 問題：横断歩道を渡っていいのは赤信号？青信号？
問題：信号が点滅していたら、止まる？止まらない？



③公道に出て実際に歩こう

出発前に歩行者用信号のクイズと標識のクイズを出しました。説明の最後に「この標識がこれから歩くどこかにあるから、よく見て探してね」「標識を見つけたらルールを守ろうね」と声かけをすると、標識に対する意識が高まりました。



<ワンポイント>

○実際に歩くルートを確認を職員が事前に行い、どんな標識が使われているかをチェックします。

その標識についての問題を出すと、クイズが盛り上がり標識への意識も高まります。



<活動の動機づけ>

○歩行者用信号を理解して渡ることができたら、職員から花丸をもらえるようにしました。

花丸が2個もらえたら、「かきごおり引き換え券」と交換できることを伝え、

かき氷を楽しみに頑張る様子が見られました。



お子さんに合わせて、目標の設定をすることで、それぞれのお子さんが無理なく活動に参加できました。標識クイズでは標識をパネルにして見せるクイズにしたことで、標識に意識を向けて見ることができ興味が高まりました。暑い時期に活動をしたのですが、動機付けとしてかき氷を用意したことにより、子ども達のモチベーションが上がり、みんなが楽しく参加することができました。終わってからの楽しみを作ってあげるといいですね。

こんなこともやりました！



- 「大人と手をつないで歩くことが苦手なお子さん」
- 「探究心が強く自分の好きな方へ行きたくなるお子さん」
そんなお子さんへの支援の工夫をしました。

- 「大人と手をつないで歩くことが苦手なお子さん」
→ 「手をつなぐ」をターゲットにして公道には出ずに、手を繋げたら花丸がもらえるように目標を設定しました。



感覚過敏で手をつなぐことが難しいお子さんには、誘導リングを使用して、手と手をつながなくても良い方法を考えてあげてみてください。



- 「探究心が強く自分の好きな方へ行きたくなるお子さん」
→ 「行く場所の理解」をターゲットにして、行く場所が順番に提示してあるスケジュールを作り、スケジュール通りに散歩ができれば花丸がもらえるように目標設定をしたり、周辺の地図を作り、職員と一緒に地図を確認しながら歩くことで探求したい気持ちも理解しつつ活動に参加できるようにしたりしました。

